

H25「うつのみや学校マネジメントシステム」学校評価書（小学校版）

※ 網掛けのない部分が計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

2014 /3/5 現在

1 教育目標（目指す児童生徒像含む）

（1）基本目標

人間尊重の精神を基盤として，知・徳・体の調和のとれた，心身ともに健康で人間力豊かな児童の育成

（2）具体目標（具体的な児童生徒像など）

仲よく

- ・よく考える子ども …… 規範意識をもち，自ら考え，進んで学べる子ども
- ・思いやりのある子ども … 自他のよさに気づき，共に伸びようとする子ども

強く

- ・体力のある子ども …… 心身ともに健康で気力や活力に満ちた子ども

たくましく

- ・はたらく子ども …… 目標の実現に向けて粘り強く取り組める子ども

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

心身ともに健康で人間力豊かな児童の育成

「明るく楽しい活気に満ちた学校」

- ・明るく活気のある雰囲気の中で，子どもが生き生きと学習・活動する学校
- ・地域の教育力を生かし，学校・家庭・地域が協働し，生き生きと活動する学校
- ・高い指導力を備えた教職員が行動規範に基づき，豊かな教育活動を展開する学校

3 学校経営の方針（中期的視点） 地域学校園内で共通する方針は，文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

（1）学習指導の充実

確かな学力を身に付け，実社会や実生活の中で活用できる力を育む教育を工夫・創造する。

（2）教師力の向上

教職員として使命感や誇りをもち，自己研鑽に励み，協働しながら教師集団の総合的な指導力を高め教師力の向上に努める。

（3）特別支援教育の充実

一人一人の教育的ニーズに応じた適切な教育を推進する。

（4）心身ともに健やかな身体の育成

健康で安全に生活できる能力を身に付け，気力や体力をはぐくむ教育活動の充実を図る。

（5）豊かな心の育成

自己有用感を高めるとともに，思いやりの心をもち，自他の生命を尊重する豊かな心を育む。

（6）人間力の育成

社会的自立の基礎を培い，社会の変化に対応しながら力強く生きぬく実践力・行動力を育成する。

※人間力：社会を構成し運営するとともに，自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力

（7）信頼される開かれた学校づくりの推進

子どもは地域の中で育むという視点をもち，学校，家庭，地域との連携，協働を図りながら信頼される開かれた学校づくりを推進する。

（8）危機管理・環境整備の充実

子どもが安心して安全に過ごせる環境づくりに努めるとともに，落ち着いて生活できる潤いのある環境の整備を推進する。

4 今年度の重点目標（短期的視点） 地域学校園内で共通する方針は，文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

（1）学校運営

「明るく活気のある雰囲気の中で，子どもが生き生きと学習・活動する学校」

－ 明るく，楽しい，活気に満ちた学校 －

（2）学習指導

「学び合う集団の中での個の育成」～集団の中で伸ばそう 個の力

－ 児童の学力向上(学力保障)のための活動を推進する －

（3）道徳教育（児童生徒指導）

「互いのよさを認め，豊かな人間関係を築くことのできる児童の育成」

－ あいさつ運動，読書活動の推進を基盤として －

（4）健康（保健安全・食育）・体力

「自らの健康・体力に関心をもち，進んで体力の向上に励む児童の育成」

－ 休み時間の外遊び，プチトレーニングの取組を通して －

5 自己評価（A は共通評価指標、B は学校独自評価指標）

（評価指標の〔全〕は、全体アンケート実施）

（「主な具体的な取組の方向性」には、A 拡充 B 継続 C 縮小・廃止、を自己評価時に記入）

項目	評価指標	主な具体的な取組	方向性	評価
教育全体の状況	A1 学校は、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。〔全〕 【数値指標】 全体アンケートの「私は、今の学校が好きである」 ⇒児童の肯定回答90%以上	①いじめの早期発見、早期解決のため、5月、10月、1月に学校生活アンケートを継続して実施する。 ②相手を思いやる気持ちを育てる 取り組みの推進のため、中学生と一緒に年間を通してあいさつ運動をする。また、いじめゼロ強調月間には、兄弟学年でのなかよし畑活動や、縦割り班でのエンカウンターを活用した異学年交流を行うなど、全校活動を通して、相手を思いやる気持ちを育てる取り組みを推進する。	B	【達成状況】 児童の肯定回答率は91.3%で数値指標を達成した。 あいさつ運動は、計画委員会を中心に、クラス単位で実施した。また、中学生が月一回あいさつ運動に参加し交流を図った。いじめゼロ強調月間では、計画委員会を中心に、いじめゼロ集会でのエンカウンター（みんなで課題を解決したり話し合ったりしながら心のふれあいを深めていくために作られた学習方法）などを実施した。 【次年度の方針】 いじめの早期発見、早期解決のため、教育相談に合わせて年2回、学校生活アンケートを継続して実施する。相手を思いやる気持ちを育てる取り組みの推進のため、中学生と一緒に年間を通してあいさつ運動をする。また、いじめゼロ強調月間には、兄弟学年でのなかよし畑活動や、縦割り班でのエンカウンターを活用した異学年交流を行うなど、全校活動を通して、相手を思いやる気持ちを育てる取り組みを推進する。
	A2 教職員は、組織の一員として熱心に教育に当たっている。〔全〕 【数値指標】① 全体アンケートの「先生方は、大切なことを熱心に指導してくれる」 ⇒児童の肯定回答90%以上 【数値指標】② 全体アンケートの「教職員は協力し、児童のよいところを認め、教えるべきことを熱心に指導している」 ⇒保護者の肯定回答80%以上	①児童理解を深めるため、6月と11月に教育相談週間を設定する。 ②朝の学習の時間には、国語や算数を中心にプリントやドリルを活用した繰り返し学習の効果的な実施方法等について、職員間で共通理解を図りながら全校体制で取り組む。	B	【達成状況】 ①児童の肯定回答率は95.8%で数値指標は達成されている。6月と12月に実施した教育相談には、Q-Uアンケート（楽しい学校生活を送るためのアンケート）の結果など十分活用することができた。 ②保護者の肯定回答率は88.8%で数値指標を達成することができた。共通理解をもとに学習指導を行ったり児童の学校での様子を伝えるときにはよいところも進んで伝えることができた。 【次年度の方針】 児童理解を深めるため、6月と11月に教育相談週間を設定する。朝の学習の時間には、国語や算数を中心にプリントやドリルを計画的に活用した繰り返し学習の効果的な実施方法等について、職員間で共通理解を図りながら学習時間を確保し全校体制で取り組む。

学	A3 児童は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、授業と生活のきまりやマナーを守って生活している」 ⇒児童の肯定回答80%以上	①教職員間で生活目標の共通理解をさらに深め、毅然とした態度で児童に決まりやマナー、秩序を徹底指導していく。 ②児童が自分の生活の様子をふり返る場や、決まりを守って生活している児童が賞賛される機会を設定する。	A	【達成状況】 児童の肯定回答率は78.2%で数値指標をやや下回った。保護者の肯定回答率も昨年より低かった。授業や生活のきまりについて、校内放送で呼び掛けたり、学級でその都度指導をしたりしてきたが、数値指標を下回った。 【次年度の方針】 教職員間で生活目標の共通理解をさらに深め、毅然とした態度で児童に決まりやマナー、秩序を徹底指導していく。 学校だより学年だよりや学年学級懇談での情報の提供・共有化を通して、家庭や関係機関と連携し、規範意識が高まるようにする。生活目標を洗い出し、重点化して指導に取り組む。
	A4 教職員は分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力の向上を図っている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケートの「先生方の授業は、分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」 ⇒児童の肯定回答90%以上	①きめ細かな指導の充実を図るため、T・Tや学級内での習熟度別学習等、指導形態の工夫や少人数による指導を多くの学年・学級で実施する。 ②学力向上を図るため、さらに授業研究を重ね指導の工夫改善に取り組む。	B	【達成状況】 児童の肯定回答率は93.0%で数値指標を達成した。 教員は、学年間での共通理解を図りながら教材研究や児童指導を実施してきた。また、4年・5年・6年でT・Tの授業や習熟度別の授業を実施し、きめ細やかな指導の実施に努めてきた。 【次年度の方針】 きめ細かな指導の充実を図るため、児童の実態や授業内容に合わせてT・Tや習熟度別学習等、指導形態の工夫や少人数による指導をさらに推進していく。 学力向上を図るため、一人一授業を実施し、互いに見合うことにより指導の工夫改善を図る。
	A5 日課、授業、学校行事など教育課程は、適切に実施されている〔全〕 【数値指標】 全体アンケートの「私の学校生活や様々な活動は充実している」 ⇒児童の肯定回答90%以上	協調性や思いやりや勤労意欲などを養うため、引き続き農園活動、ボランティア活動、福祉活動、縦割班活動などの体験活動を実施する。	B	【達成状況】 児童の肯定回答率は92.7%で、数値指標を達成した。 上級生、下級生がそれぞれに協力し合う活動を通して高学年としての自覚が生まれたり年長者を尊ぼうとする意識が生まれたりした。また、お互いに思いやり、協力しようとする心情が育った。 【次年度の方針】 感謝の心、協調性や思いやりや勤労意欲などを養うため、引き続き農園活動、ボランティア活動、福祉活動、縦割班活動などの体験活動を実施する。
	A6 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われ、開かれた学校づくりが進められている。〔全〕	宇都宮オープンスクール等学校公開や授業公開については、昨年度と同様に年間4回実施する。また、より理解を深めてもらうため、月に1度は保	B	【達成状況】 保護者の肯定回答は96.4%で数値指標を達成した。学校便りや新田日記、学年便りなど定期的に配信をした。

校 運 営 の 状 況	【数値指標】 全体アンケートの「学校は、学校便りや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している」 ⇒保護者の肯定回答 80%以上	護者と関わる行事等を実施する。	【次年度の方針】 本年度と同様に授業参観、オープンスクールを年4回、月に1度保護者と関わる行事等を実施し、情報を発信をする。
	A7 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った地域の学校づくりが推進されている。[全] 【数値指標】① 全体アンケートの「本校の保護者は、学校の教育活動などに協力的である」 ⇒保護者の肯定回答 80%以上 【数値指標】② 全体アンケートの「学校は、家庭、地域、企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒教職員の肯定回答 80%以上	①授業参観などの学校行事やPTA活動など教育活動に積極的に参加できるよう情報を発信する。 ②教育活動を充実させるため、地域教材や人材、学校支援ボランティアを活用した授業を計画的に実施する。	【達成状況】 ① 保護者の肯定回答は 93.2%と数値指標を達成した。各種便りで保護者や地域の方への参加を促した。また、学校の様子などをホームページでも公開した。 ② 教職員の肯定回答は 96.0%と数値指標を達成した。読書ボランティアや水泳ボランティア 農園ボランティアなど、各種の学校支援ボランティアを中心に地域人材を活用して教育効果を上げることができた。地域協議会やPTAと連携し、児童の安全面の確保や学習面の充実が図れた。 【次年度の方針】 ①授業参観などの学校行事やPTA活動など教育活動に積極的に参加できるよう各種便りや連絡帳等で情報を発信する。 ②地域協議会との連携を図り、地域教材や人材、学校支援ボランティアを活用した教育活動を計画的に実施する。
	A8 校内は、学習にふさわしい環境となっている。[全] 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、清掃が行き届き、学習しやすく潤いのある環境である」 ⇒保護者の肯定回答 80%以上	①清掃時に教職員が協働の姿勢を示したり、清掃の仕方を各クラスで学級活動の時間に話し合ったりして隅々まできれいに清掃できるようにして、清潔で整理整頓された教室環境づくりに努める。 ②落ち着いた学校生活を過ごすとともに、学習に生きる環境を整備するため、校内環境の在り方について、児童の視点から再度検討し、学校環境の整備・充実を図る。 ③靴箱の砂を各クラスで休み時間に清掃するようにするなど、気付いた所を主体的にきれいにしようとする態度を育てる。	【達成状況】 保護者の肯定的回答は 91.4%と数値指標を達成した。 清掃時に教職員が協働の姿勢を示した。清掃の仕方を、各クラスで学級活動の時間に話し合う等、隅々まできれいに清掃できるようにし、清潔で整理整頓された教室環境づくりに努めた。 【次年度の方針】 ① 落ち着いた学校生活のために校内環境の在り方について、児童の視点から検討し、学校環境の整備・充実を図る。(校内掲示計画、教室掲示) ② 清掃や整理・整頓について学級活動などの時間に話し合ったり、清掃時には、教職員が協働の姿勢を示したりして、隅々まで清掃できるようにする。また、机やロッカーの整理の仕方を具体的に示し、身近なところからきれいにしようとする態度を育てる。(清掃の手順、ロッカー・廊下のフック、靴箱の使い方等の掲示物の活用)
	B1 教職員は学校の研究課題	①授業で様々な学び合いの場を意図	【達成状況】

	(学び合い)に関する研究に積極的に取り組んでいる。 【数値指標】 学校独自アンケートの「授業で、みんなと一緒にじっくりと考えながら勉強している。」 ⇒児童の肯定回答80%以上	的に設定し、互いの学びを深め合える学習の実践に努めるとともに、学び合う学習環境を整える。 ②保護者や地域住民へ授業参観や学年だより等で子どもの様子を知らせ、理解を得られるよう努める		児童の肯定回答は92.4%と数値指標を達成した。 授業で様々な学び合いの場を意図的に設定し、互いの学びを深め合える学習の実践に努めるとともに、学び合う学習環境を整備に努めた。保護者や地域住民へ授業参観や学年だより等で子どもの様子を知らせた。 【次年度の方針】 ① 授業で様々な学び合いの場を意図的に設定し、互いの学びを深め合える学習の実践に努めるとともに、学び合う学習環境を整える。 ② 保護者や地域住民へ授業参観や学年便り等で子どもの学びの様子を知らせ、理解を得られるよう努める
教育活動の状況	A9 児童は進んであいさつをしている。 【数値指標】① 全体アンケートの「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」 ⇒児童の肯定回答80%以上	児童会の計画委員会を主体とし、全学級ローテーションのあいさつ運動を継続的に行うとともに、集中的に指導を行う期間を定め、校内放送での意識付けを図る。また、若松原学校園として小中で協力し、あいさつ運動を継続・充実させる。	B	【達成状況】 児童の肯定回答は、88.4%で、数値指標を達成した。 児童会の計画委員会を主体とし、全学級ローテーションのあいさつ運動を継続的に行うとともに、集中的に指導を行う期間を定め、校内放送での意識付けを図った。若松原学校園として小中で協力し、あいさつ運動を継続・充実させた。 【次年度の方針】 児童の肯定回答は数値指標を上回ることができたが、今後も、より積極的なあいさつができるようにしていくために、本年度の取り組みに加え、校内放送やポスター等による意識付けや、あいさつが上手な児童を賞賛するなどして、取組の充実を図っていく。
	A10 児童は、正しい言葉づかいをしている。 全体アンケートの「児童は、大人に対して適切な言葉づかいや返事をしている」 ⇒地域住民の肯定回答80%以上	言葉遣いについて、日常的にその都度指導を繰り返す。家庭にも学年・学級懇談や学年だよりなどを通して、正しい言葉遣いができるよう、協力を呼びかける。	A	【達成状況】 地域住民の肯定回答は66.7%で、数値指標を下回った。 言葉遣いについて、日常的にその場で個別指導を行ったり、学級活動の時に学級全体への指導を行ったりした。 【次年度の方針】 本年度の取り組みに加え、ソーシャルスキルトレーニング（時と場に応じた言動ができるようにするために作られたトレーニング方法）やエンカウンター（みんなで課題を解決したり話し合ったりしながら心のふれあいを深めていくために作られた学習方法）などを取り入れ、各学年の発達に応じて学級活動・会話科・特別活動・道徳等で指導を行う。
	A11 児童は、進んで運動する習	「すくすくカレンダー」の活用につ	B	【達成状況】

教育活動の状況	慣を身に付けている。 全体アンケートの「児童は、休み時間や放課後などに進んで運動している」 ⇒児童の肯定回答80%以上	いて家庭への周知の徹底を図るとともに、強化週間などを活用し、本校独自の「家トレ」の奨励を継続して行う。また、ジャンピングボードなど、児童が進んで運動に利用できる器具を整備する。	児童の肯定回答は86.3%で、数値指標を達成した。 「すすくすくカレンダー」の活用について家庭への周知の徹底を図るとともに、強化週間などを活用し、本校独自の「家トレ」の奨励を継続して行った。また、ジャンピングボードや一輪車、投てき板など、児童が進んで運動に活動できる器具を整備した。 【次年度の方針】 本年度の取り組みを継続し、「すすくすくカレンダー」の活用について家庭への周知の徹底を図る。また、本校独自の「家トレ」の奨励を継続して行う。また、今年度までに整備が進んだ、ジャンピングボードや一輪車、投てき板など、児童が進んで運動に利用できる器具を引き続き、整備・活用していく。
	A12 児童は、栄養のバランスを考えて食事をしている。 全体アンケートの「自分の子どもは、好き嫌いなく食事をしている」 ⇒保護者の肯定回答80%以上	「お弁当の日」や「校内給食週間」等の機会を捉えて、食に関する意識の向上を図るとともに、食や健康の保持増進に関する授業を養護教諭や学校栄養職員と協力して継続・実施していく。また、子どもに好評な給食のメニューを紹介していく。さらに、給食室と連携して、野菜の切り方を工夫するなど、楽しい給食作りを推進する。	【達成状況】 保護者の肯定回答は、75.5%で、数値指標を下回った。 「お弁当の日」や「校内給食週間」「食事のマナー週間」等の機会を捉えて、食に関する意識の向上を図るとともに、食や健康の保持増進に関する授業を養護教諭や学校栄養職員と協力して継続・実施した。子どもに好評な給食のメニューを紹介したり、給食室と連携して、野菜の切り方を工夫したりするなど、楽しい給食作りを推進した。 【次年度の方針】 本年度の取り組みに加え、「お弁当の日」や「校内給食週間」等で、家庭との連携を推進する。「校内給食週間」では、学年の発達に応じて、嫌いなものにチャレンジしたことに対する賞賛を目に見える形で表し、好き嫌いなく食べることができたという、達成感を味わわせるようにする。 また、「校内給食週間」で、食に関する指導を、道徳又は学級活動で行う。
	A13 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 全体アンケートの「児童は、授業中に進んで話し合うなど、積極的に学習している」 ⇒児童の肯定回答80%以上	一人一人が主体的に思考・判断する力を育てるため、自分の考えをもち、互いの意見を聞き合い、考えを深め合うなどの「学び合う」活動を取り入れた授業を継続していく。	【達成状況】 児童の肯定回答は、87.6%で数値指標を達成した。一人一人が主体的に思考・判断する力を育てるため、自分の考えをもち、互いの意見を聞き合い、考えを深め合うなどの「学び合う」活動を取り入れた授業を継続して実践した。 【次年度の方針】 本年度の取り組みを継続し、一人一人が主体的に思考・判断する力を育てるため、自分の考えをもち、互いの意見を聞

			き合い、考えを深め合う「学び合い」の授業の在り方を研究していく。
	A14 児童は、落ち着いて学習に取り組んでいる。 全体アンケートの「児童は、授業中に進んで話し合うなど積極的に学習している。」 ⇒保護者の肯定回答80%以上	「基本的な学習のしつけ」に関して、掲示物を活用して児童への意識付けを図る。 個別の支援が必要な場合は、対応を検討するための話し合いを積極的にもち、各担当者間で連携して指導に当たる。 また、各学期始め・長期休業終了後に、各教室に学習態度等に関する重点目標を掲示するなどして、集中して指導を行う。	B 【達成状況】 保護者の肯定回答は、83.7%で、数値指標を達成した。「基本的な学習のしつけ」に関して、掲示物を活用して児童への意識付けを図った。 個別の支援が必要な場合は、対応を検討するための話し合いを積極的にもち、各担当者間で連携して指導に当たった。 【次年度の方針】 本年度の取り組みを継続し、「基本的な学習のしつけ」に関して、掲示物を活用して児童への意識付けを図る。また、各学期始め・長期休業終了後に、学習態度等に関する指導を集中して行う。
	B2 望ましい人間関係のもと、互いに協力し合いながら生活している。 【数値指標】 学校独自アンケートの「自分は、学校でだれとでも協力して生活している」 ⇒児童の肯定回答90%以上	生命や人権の尊重をテーマとした授業を行うとともに、縦割り班による活動を継続させる。また、お昼の校内放送の「心の輪を広げようコーナー」、掲示板の「伝え合いコーナー」を継続し、児童の自己有用感を高めたり、異学年間で互いのよさを見つけ、協調して活動しようという意欲の向上を図ったりするなど、指導の充実に努める。	B 【達成状況】 児童の肯定回答は、90.7%で、数値指標を達成した。 生命や人権の尊重をテーマとした授業を行うとともに、縦割り班による活動を継続した。昼の校内放送の「心の輪を広げようコーナー」、掲示板の「伝え合いコーナー」を継続し、児童の自己有用感（自分が他の人のために役立っているという意識）を高めたり、異学年間で互いのよさを見つけ、協調して活動しようという意欲の向上を図ったりするなど、指導の充実に努めた。 【次年度の方針】 本年度の取り組みを継続し、各教科や道徳で、生命や人権の尊重をテーマとした授業を行うとともに、縦割り班による「わくわくタイム」（昼休み時の縦割り班活動）を継続させる。また、お昼の校内放送の「心の輪を広げようコーナー」、掲示板の「伝え合いコーナー」を継続し、児童の自己有用感を高めたり、異学年間で互いのよさを見つけ、協調して活動しようという意欲の向上を図ったりする。
本校の特色・課題	B3 教職員は、家庭や地域と連携を図りながら、あいさつ運動に取り組んでいる。 【数値指標】 学校独自アンケートの「教職員は、家庭や地域と連携を図りながら、あいさつ運動に取り組ん	交通指導員さんや下校ボランティア・地域の下校見守りの方々等に感謝の気持ちを表したり、校舎内外でのあいさつの輪を広げたりする活動を継続する。また、校内の掲示物や懇談会やたより等であいさつに取り組む様子を保護者に知らせ、連携を図る。	B 【達成状況】 児童生徒の肯定回答は88.4%であり、数値指標を達成した。 昇降口におけるあいさつ運動を計画委員会だけでなく、全児童が行えるよう、クラス単位や委員会でも年2回の割合で実施した。また、昨年度に引き続き、若松原中学校の生徒が来校し、あいさつの

等	でいる」 ⇒保護者の肯定回答 80%以上		輪を広げる活動を行った。 【次年度の方針】 引き続き、交通指導員さんや下校ボランティアの方々等に感謝の気持ちを表したり、校舎内外でのあいさつの輪を広げたりする活動を継続する。また、校内の掲示物や懇談会やたより等であいさつに取り組む様子を保護者に知らせ、啓蒙を図るとともに、懇談会の折に家庭内でもあいさつの輪を広げてもらうよう呼びかける。
	B4 教職員は、児童の読書意欲を向上させるための取組を推進している。 【数値指標】 学校独自アンケートの「自分は、読書や調べ学習などで月20冊以上本を読んだり、調べたりしている」 ⇒児童の割合 90%以上	朝の図書館を開館し利用時間をより多く確保するとともに、朝の読書の時間を充実させ、読書の推進に努める。また、家庭での読書を奨励し、家庭の理解と協力を呼び掛けながら、様々なジャンルに親しませ、読書指導の充実を図る。	B 【達成状況】 教職員肯定回答は96.0%保護者91.3%地域住民88.2%で、数値指標の90%にほぼ達しているといえる。しかし、児童の肯定回答をみると、68.7%と厳しい回答がでている。 児童の意識として最後まで読み終えないと読んだと認めない厳しさの表れとも考えられる。 図書館の貸し出し冊数の調査を見ると、本年度は1か月平均26.6冊であり、目標冊数に達している。 また、「朝の図書館開放」「朝の読書の時間」により、読書のリズムが定着してきて静かに読書している様子が見られる。読み聞かせボランティアの方々や親しむ機会が多かったことや司書によるブックトークの実施も、児童の読書意欲の向上に効果的であり、本好きの児童が育っていると考えられる。 【次年度の方針】 引き続き、朝の図書館を開館し利用時間をより多く確保するとともに、朝の読書の時間を充実させ、読書の推進に努める。また、家庭でのファミリー読書を奨励し、家庭の理解と協力を呼び掛けながら、様々なジャンルに親しませ、読書指導の充実を図る。 そして、子供たちの読書意欲を高めるために、毎月の読書状況を昼の校内放送で児童に知らせる工夫をしていく。
	B5 教職員は、児童の人間関係力向上を目指して、縦割り班活動を推進している。 【数値指標】① 学校独自アンケートの「縦割り班活動で、多くの友達と楽しく活動している」 ⇒児童の肯定回答 80%以上	リーダーである6年生を中心に、各学年の役割や協力の仕方を学ぶ場として縦割り班活動を充実させる。活動の前に一人一人目当てを言う場を設けるなど、中学年や低学年の児童にも、コミュニケーション力や人間関係力の向上を目指せる場とする。	B 【達成状況】 児童の肯定回答は89.5%と、数値指標を達成している。 縦割り班による遊び(わくわくタイム)や児童集会、縄跳び大会など、年間を通して計画的に実施してきた。6年生を中心に、集団での活動を通して互いに認め合う場を意図的に設定してきた。活動の初めに輪になって手をつないだり、振り返りをしたりすることで、班の結束がさらに強まっていくことができたと考えられる。

			【次年度の方針】 引き続き、リーダーである6年生を中心に、各学年の役割や協力の仕方を学ぶ場として縦割り班活動を充実させる。事前に各クラスで学年の発達段階に応じて参加の心構えを指導しておくことで、活動がスムーズに行え、コミュニケーション力や人間関係力の向上を目指せる場となるようにする。
--	--	--	--

〔総合的な評価〕

- 教育全体の状況については、おおむね数値指標を達成することができた。
- 「児童は、授業と生活のきまりやマナーを守って生活している。」については、児童・保護者ともに昨年度を下回った。教職員間での共通理解をさらに深め、努力していくことが必要であると考えられる。(A3より)
- 学校運営の状況について、すべての項目において数値目標を達成し、高い評価が得られた。「積極的な情報発信・提供」については、全ての評価対象者の肯定的回答が9割を超えた。学校の公開や積極的な情報発信・提供により、開かれた学校づくりが行われた。「家庭・地域・企業との連携」については、地域協議会やPTAと連携し、地域教材や人材、学校ボランティアを活用した教育活動を行うことにより、教育活動がより一層充実した。
- 言葉遣いに関しては、残念ながらいずれの回答も前年度を下回る結果となった。ソーシャルスキルトレーニング（時と場に応じた言動ができるようにするために作られたトレーニング方法）やエンカウンター（みんなで課題を解決したり話し合ったりしながら心のふれあいを深めていくために作られた学習方法）など具体的な改善のための手立てを工夫していくことが必要である。
- 栄養のバランスを考えて食事をしているか、という設問に関しては、残念ながら肯定回答が前年度を下回る結果となったが、意識が高まった反面、自分や自分の子供に対する見方が厳しくなってきた、ということも考えられる。がんばって食べている、という気持ちを認め励ましていく具体的な方法を工夫していくことも必要である。また、家庭との連携を深め、食事の様子を必要に応じ、小まめに連絡し合うことができるような関係の醸成に努めていく。
- 「縦割り班活動」では6年生のリーダー育成や各学年に相応した成長が見られ、数値指標を達成した。「読書」については、肯定回答率は毎年数値目標を達成しているが、今後もさらに取組の充実に努めることが必要である。(B4 B5より)

6 学校関係者評価

- 学校運営全般について
 - ・進んであいさつのできる児童、時と場に応じた言葉づかいのできる児童の育成を課題とし、指導の重点化を図っているが、これらは、学校だけで指導するものではなく、あらゆる機会を捉え、日常的に指導することで習慣化されるものと考え。保護者や地域住民が子どもたちの手本となるような言葉づかいをすることで改善されるのではないかと考える。
 - ・学校は年間を通しての中学校と連携したあいさつ運動や異学年交流などで思いやりの心を育む活動をしている。地域としても子どもたちの健全育成のために協力していきたい。
 - ・子どもは学校・家庭・地域の協働により育むことが前提であると考え。学校の様子はフリー参観や各種の便りなどで把握できるが、家庭での様子について把握することは難しい。学校が経営的な見地から「このようなねらいを達成するために、何を、いつまでに、どのように」を明示することで地域と家庭との接点も生まれ、地域としても協力しやすくなると考える。
- 道徳教育（児童生徒指導）について
 - ・新田小では、読書活動の推進のために様々な方策を掲げている。読み聞かせもそのひとつであるが、保護者の読み聞かせボランティアが減少していることを危惧している。読み聞かせの様子や読み聞かせを楽しみにしている子どもたちの姿を保護者にもっと知ってもらい、保護者の協力を仰ぐことで、読書活動が更に充実すると考える。
 - ・読み聞かせの活動を通じて子どもたちの聞く態度が育つのではないかと。話がしっかり聞けるというのは、コミュニケーションの基本だと考えるので、話の聞き方について指導することで相手を思いやる心の育成を図るとよい。
 - ・昨今、いじめの問題が社会的にクローズアップされているが、本来いじめている側にはいじめているという認識は無く、遊びの延長としてふざけている場合が多いのではないかと考える。自分の行動が相手を傷つけていることに気づかない子どもたちに「いじめはやめよう」と言っても心には響かない。どのようなことがいじめなのかを考える活動を行ったり、「いじめと疑われることはやめよう」と指導したりするほうが子どもの心に響くのではないかと。
 - ・規範意識の育成については、学校や保護者だけでなく、地域にも協力できることがあるのではないかと考える。これからも近くの公園で遊ぶ子どもたちの言葉づかいや後片付けなどで気になることがあれば、その都度子どもたちに声をかけていきたい。

- ・ものや道具が溢れている現代，互いを尊重し，認めあうことのできる児童を育成するためにはともすれば忘れがちになってしまう「もの」のありがたさや「人」のぬくもりを再認識することが大切ではないかと考える。
- 健康（保健安全・食育）・体力について
- ・子どもの好き嫌いについての保護者の肯定的回答が低い，これは，家での食事の様子から判断しているものではないかと感じる。学校の給食では，苦手なものにもチャレンジしたり，友達につられて食べるようになったりしている。給食の様子を家庭に知らせることで，学校での食事の様子が把握でき，保護者も協力しやすくなるのではないかと考える。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

- 各種便りや授業参観・オープンスクール等の学校公開を通して，教育活動全般について家庭・地域への情報公開を積極的に実施し，開かれた学校づくりに努めていく。
- あいさつや言葉遣いなど，基本的な生活習慣や望ましい生活態度の向上を図るため，児童主体のあいさつ運動の工夫や，適切な言葉遣いの指導の充実に，学校・保護者・地域が連携して今後も継続して取り組む。
- 学習や学校生活によりよく取り組む意欲や態度を育成するため，「朝の学習」，「朝の会」，「帰りの会」についても内容等を検討し共通理解を深めて，さらなる指導の充実を図り，基礎学力のさらなる向上をめざす。
- 清潔な雰囲気の中で学習に役立つ環境づくりに努めるため，階段など共用部分の清掃方法を今後も検討するなどして，校内の環境整備のさらなる充実を図る。
- 家庭との連携を深めた指導の充実のため，「すくすく子育てプラン」や「すくすくカレンダー」の活用について，家庭への周知を徹底し理解を深めていただくとともに，強化週間を設定し集中的に指導するなど，効果的な指導の工夫に取り組む。